

2008.2/20 山陽新聞

福祉車両の事故防ごう

県運転免許センター 施設職員ら初研修

福祉施設の職員ら約八十人

高齢者や障害者の送迎に使われる福祉車両の交通事故を防ごうと、県警などは十九日、県運転免許センター（岡山市御津中山）で、県内の介護老人保

を対象に研修会を開き、正しいシートベルトの着用などを指導した。

高齢化に伴い、全国で福祉車両の利用が増加する中、県内でも一月中旬、デイケア利用者の送迎中に高齢者一人が死亡する交通事故が発生したことなどを受け、初めて実施した。

県警交通企画課の担当者「シートベルトの装着が適正でも車いすの固定が不十分では大けがにつながるかねない」と助言。高齢者の体調や症状に配慮し、急な加速や右左折を避け、優しい運転を心掛けるよう訴えた。

参加者たちは最新の福祉車両なども見学。瀬戸いこい苑の職員八杉満さん（四〇）＝笠岡市生江浜＝は「安全には配慮していたつもりだったが、初めて専門家から正しい知識を教わり、参考になった。同僚にも教え、事故防止に努めたい」と話していた。（長瀬庸一）